

東京桑野会会報

●2016年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階 新神田法律事務所内



No.38

《安積歴史博物館（旧本館）》

画：母校美術科 櫻村俊智（98期）



ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

キリスト教の西欧とイスラム教の中東の間には長い絡み合いの歴史がある。7世紀に誕生したイスラム教はキリスト教の遠い親戚みたいなものだが、あつという間に強大な帝国を作り上げ中東・北アフリカ・スペインにその支配を広げた。西欧は聖地エルサレムをイスラムの手から奪還すべく十字軍を繰り出しイスラム世界を蹂躪した。その時高度のイスラム文明に刺戟を受けルネッサンスが起こった。アルコール、アルカリ等のアラブ由来の言語にその痕跡が残っている。その後イスラム世界の主導権はトルコに移り強大なオスマン帝国が出現、西欧はその侵攻に脅えることとなった。事実ウィーンは2回も包囲され人々は肝を冷やし

た（その時敗走したトルコ軍のテントの中に見なれぬ褐色の液体と豆があり、これからコーヒーが西欧に広まって行く）。併しこの軍事大国も第一次世界大戦で敗者となり、解体されてシリア、イラクなどの新しい国々が誕生した。併し国境の線引きは極めて人為的なものであったため国民国家として成熟するには至らなかった。その為イスラム教に内在するスンニーとシーアの対立がむき出しとなり、これらのことが今日のISをめぐる混乱とテロの頻発を招いているのである。その上IT時代で悪意のある情報が簡単に世界中に拡散浸透し、信奉者を作り行動に駆り立てることが可能になっている。事態は極めて深刻であると言わざるを得ない。

東京桑野会平成28年度 定期総会・懇親会のお知らせ

下記の要領にて実施します。会員の皆様は、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

- 日 時：平成28年6月3日（金曜日） 16：00受付開始
- 場 所：ホテル椿山荘東京 [東京都文京区関口2-10-8]
JR目白駅、または東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 下車
電話 03-3943-1111
- 会 費：懇親会費 ¥8,000 東京桑野会年会費 ¥2,000
(合計 ¥10,000)
118期以降の若手会員は、年会費・懇親会費合計 ¥6,000
学生につきましては、年会費・懇親会費合計 ¥3,000
- タイムスケジュール
16:00 (午後4時) ~ 受付開始
17:00 (午後5時) ~ 平成28年度東京桑野会定期総会
17:30 (午後5時半) ~ 講演会
講演者：宗像良保 (78期)
[元・プレジデント社]
演題：原発事故から5年、フクシマの今
18:00 (午後6時) ~ 懇親会

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席できない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もごございますので、出欠の返事は同封の葉書で、5月24日(火)までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入してください。葉書にはアンケートもごございますので、ご協力ください。

◇また、連絡もれがあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2015年5月29日(金)に、平成27年度定期総会・懇親会として開催され、来賓3名、一般会員104名、学生会員2名の総勢109名の参加がありました。

母校便り

☆母校は今年(2016年)、創立132周年を迎えます。創立130周年を超える、旧制中学校由来の高校を探してみると、全国でもそう多くはありません。また、旧制・県第一尋常中学校(あるいはそれに準ずる県中學校)で、現在の県庁所在地にない高校は、弘前高校(青森県)と彦根東高校(滋賀県)と母校くらいでしょうか。そんな希少な歴史を持つ母校の現在の様子を、母校からの情報をもとに紹介いたします。☆東日本大震災で被害をうけた母校校舎(※安積歴史博物館(旧本館)は除く)は、平成25年度から改修工事が行われ、25年度には理科棟の西半分、26年度には理科棟の残りと管理棟西側が終了し、27年度には管理棟東側が行われ、一応の完了を見ました。北校舎、中校舎は耐震工事が既に終了していたため今後の工事は無く、また中校舎で不評を囲っているトイレや床の改修の見込みは、「県の予算次第」だそうです。ん～・・・。

☆安積歴史博物館は復旧した2014年のグランドオープン後、いろいろな形で活用が進められていますが(公益財団法人安積歴史博物館の橋本文典業務執行理事の文章をご参照ください)、現役安高生も活用しています。11月29日(日)に案歴博・復元教室で、文学イベント「ただよまなびや

世界をもてなす、日本がある。ホテル椿山荘東京
Bringing Japanese hospitality to the world HOTEL CHINZANSO TOKYO



そこには、さながら森のような庭が広がっています。

東京のまん中にいるとは思えない、静寂につつまれたやさしい時間を、心ゆくまで味わってください。

At Hotel Chinzanso Tokyo, we are honored to share this heritage with you through our services and accommodations and especially our legendary garden. Discover the essence of Japanese hospitality.



〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8
10-8, Sekiguchi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8680, JAPAN
TEL.03-3943-1111 <http://hotel-chinzanso-tokyo.jp/>



世界をもてなす、日本がある。
HOTEL 椿山荘 TOKYO
CHINZANSO

文学の学校（学校長・古川日出男氏）が行われ、母校の後輩の他、安積黎明高（私らの世代は、安女！）や郡山東高（私らの世代は、郡女！）の生徒ら15名が、いろいろやっていたそうです。そこへ現れたのが、「村上春樹」さん。サプライズ！！参加生徒は、「有名な村上春樹さんを間近で見られて嬉しかった」とのことでした。そりゃ、そうですよね！これも母校OBである古川日出男さんの尽力も大きかったでしょうね。

☆安歴博は、様々なドラマ撮影等の現場としても活用されてきました。TBSテレビの人気番組ザ・ベストテンの中継で、中森明菜さんの歌とともに安歴博の正面が全国に放送されたのは、印象深かったですね（私らの世代は…）。今年の子テレ系列新春ドラマスペシャル「坊っちゃん」では安歴博がロケ地になり、「嵐」の二宮和也さんが来る、ってことで盛り上がったそうです。安高生もエキストラで出演しました（坊主頭の生徒のみ40人が、旧制松山中学校の生徒に扮した）。この出来事も、何年か後には、「昔なあ、俺が安高生だったころ、嵐のニノと一緒にドラマ撮ったんだぞ」という話になるのだろうか…。

☆安積の「伝統」はいろいろありますが、現役生には、「対面式」や「ロードレース」も伝統とのこと。前者は私らの世代でも分かりますが、後者は？

ロードレースって120周年記念行事辺りが起源で、90期台は「駅伝」ですよ。伝統もいろいろ変わるのです。☆変わらない伝統は、「応援歌練習」「仮装行列」ですね。応援歌練習は、いまだに安高生になるための「試練」の行事のようです。見ている分には「応援歌練習」は楽しいですよ…。

☆応援歌練習の成果が出るのが運動部活の応援（特に野球部応援）ですよ。

ね。野球部応援の一大イベントになってきたのが、安積—安積黎明定期戦です。平成27年は、全校応援の甲斐もあり3—2での勝利でした。福島県の高校野球は、聖光学院高校の1強状態ですが、母校も頑張って甲子園に…。流石に22世紀枠の際には、私は生きていない…ゾッ、と。

☆部活動での活躍も光っています。硬式テニス部からインターハイ（全国大会）出場選手が出ました。文化部では、囲碁同好会、将棋部、写真部、美術部、新聞委員会、放送委員会が全国大会に出場しました。東北大会（新人戦）では、陸上部から、100M、400M、110Mハードルで、入賞者を輩出いたしました。卓球（個人）新人戦では、県大会ベスト8 & 全国大会出場を決めました。

☆「科学の甲子園」福島県大会で安積Aチームが優勝、安積Cチームが3位でした。科学の甲子園は全国の高校生が学校対抗で科学の力を競う大会で、理科・数学・情報における複数の競技を行い、総合点を競うものです。安積Aチームは、茨城県つくば市で開催される第5回科学の甲子園全国大会（平成28年3月18日～21日）に福島県代表として出場します。頑張れ、安積！
☆大学受験でも、安積の後輩達は頑張っています。平成27年春の受験では、国公立大学に209名が合格しました（現浪合わせ）。平成28年春の受験でも、Brave安高生のcherry blossomsを祈る！

会員消息

○平成27年春の叙勲におきまして、浅川 章氏（76期、当会副会長）は、瑞宝中綬章を受章なされました。誠にめでたく、心よりの祝いを申し上げます。

○古川日出男氏（98期）が、『女たち三百人の裏切りの書』で、第37回野間文芸新人賞（2015年11月）および第67回読売文学賞〈小説部門〉（2016年2月）を受賞されました。小説、演劇（劇作家、演出）の分野での活動が目覚ましく、多くのファンがいらっしやいます。益々のご活躍をお祈りいたします。

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。（ ）は期、逝去された日。

福井 潔（46期）（平成25年）
柳沼 正美（47期）（平成26年10月27日）
好川 紀博（49期）（平成26年12月29日）
本田 一三（52期）（平成27年8月9日）
竹花 則栄（55期）（平成23年4月19日）
荒川 渉（57期）（平成27年4月2日）
村越 泰一（57期）（平成26年2月12日）
大島 拓二（58期）（平成27年4月13日）
國分 守行（59・60期）（平成26年3月30日）
小田 清（61期）（平成26年9月4日）
小松 英三（62期）（平成26年9月26日）
大河原一郎（63期）（平成24年10月17日）
佐藤 洋一（63期）（平成25年2月2日）
富樫 哲夫（63期）（平成26年7月5日）
西山健二郎（63期）（平成27年3月9日）
鈴木 奨（64期）（平成26年5月）
鶴見 一（64期）（平成26年11月21日）
江藤 勝夫（66期）（平成25年7月）
小林 十一（67期）（平成26年11月13日）
橋本 克文（67期）（平成26年2月28日）
岡部 正男（68期）（平成27年1月28日）
大越 見寿（69期）（平成25年5月8日）
杉山 隆雄（69期）（平成26年7月19日）
渡辺 雄（69期）（平成26年7月14日）
安積 佑三（70期）（平成26年4月3日）
椎野 健男（70期）（平成27年2月7日）
橋本 剛（72期）（平成22年2月15日）
酒井 洋輔（74期）（平成27年3月2日）
大山 政碩（78期）（平成26年10月1日）
後藤 一博（79期）（平成26年9月20日）
佐藤 仁一（83期）（10年以上前に逝去）
柳沼 辰雄（83期）（平成24年8月27日）

[敬称略]



ご挨拶

安積桑野会会長
安孫子健一 (80期)

東京桑野会の皆様には、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。常日頃は古川会長を始め多くの会員の方に桑野会活動にご尽力を賜り、心より感謝を申し上げます。

ご挨拶が遅れましたが、昨年9月の安積桑野会の総会において山口前会長の後を受け、会長に選任されました。私にとりましては重すぎる役目であり辞退していたのですが、ついタスキを受け取ってしまいました。歴史と伝統ある安積桑野会、浅学非才の身には大任であります。お受けしたからには先人が築いてきた安積の伝統を継承し、歴代会長の名を傷つけぬよう力を尽くしたいと思っています。

今回の役員人事では、本部役員は全員戦後生まれとなりました。会長：安孫子健一80期、副会長：阿部和博80期・鈴木正博81期・笠間善裕84期・

伊東孝弥88期・高橋金一89期、幹事長：力丸美彦89期、副幹事長：蔭山寿一89期・星正人89期、監査：大橋健二82期・関根信90期という陣容です。皆が人一倍安積を愛し桑野会の発展を願っています。その為にも各地桑野会との交流を深めながら会活動の充実に努めて参りたいと考えていますので、皆様方の温かいご指導とご協力を宜しくお願いいたします。

東日本大震災から5年がたち復旧・復興は未だ道半ばですが、福島県民は未来へと力強く歩みを進めています。同窓生も福島県の復興・創生をスローガンに各方面で活躍しています。また在校生も学業・スポーツ・文化活動は勿論のこと、原発事故災害からの地域の再生へ向けてボランティア・広報・視察等各種活動に積極的に関与し、県民に元気を与えています。東京桑野会の皆様にも物心両面でご支援いただいておりますことに、改めて御礼申し上げます。

さて、一昨年行われた130周年事業も関係各位の御協力のお蔭をもちまして、無事終了いたしました。地震により大きな被害を受けた安積歴史博物館も修復され、女子トイレの増築や出入

り口のバリアフリー化、駐車場の整備、展示物の再配置など機能と内容も充実しています。また旧講堂は各種演奏会や講演会等に使用され、地域の文化発信地としての期待が大きくなっています。2009～2011年に放映されたドラマ「坂の上の雲」が安歴博で撮影されたのは記憶に新しいところですが、今年の1月に放映されたドラマ「坊っちゃん」(夏目漱石原作)も安歴博協力のもと、昨年ロケが行われました。CGで脚色されたシーンもありましたが、懐かしくご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。運営は厳しい状況ですが、これからも日本の大切な宝として、しっかりと維持管理をしていきたいと思ひます。

現在のところ140周年までは大きな行事は予定されておひません。しかし在校生たちの活動は日々活発に続いており、私共としても今迄通りの支援を続けて参りたいと考えておひます。お願いばかりで恐縮ですが、東京桑野会の皆様には引き続き安積桑野会そして(公財)安積歴史博物館へのご協賛を宜しくおひねいたします。

((株)建設相互測地社 代表取締役)



ご挨拶

漱石没後百年、
安積と愛媛松山との縁(えにし)

安積高等学校校長
久保田範夫

昨年5月29日(金)の東京桑野会定期総会当日は、福島県高等学校校長協会会長及び全国校長協会東北ブロック代表校長としての公務と重なり出席できず申し訳ありませんでした。代わ

りに出席した鈴木康友教頭(27年4月着任)からは、「このような同窓会は初めてで非常に驚いた」という盛会の様子を聞いて嬉しく思っております。

さて、安積は平成28年度に創立132周年を迎えますが、夏目漱石が大正5(1916)年12月9日に永眠して、没後百年に当たる年でもあります。様々な企画・催しの一環として、新年1月3日に放映されたフジ系TVドラマスペシャル「坊っちゃん」(「嵐」の二宮和也主演)に、「旧本館」安積歴史博物館の講堂や廊下が何度も出てきたのを

御覧になったのでしょうか。(校舎全景は、CGコンピュータグラフィクスで変に縮められてOBには不評だったようです。)漱石は明治28年4月から翌29年3月まで愛媛県尋常中学校(現松山東高校)に英語教師として勤め、この時の経験が「坊っちゃん」に描かれています。今回のタイトル「～松山との縁」についてですが、愛媛県尋常中学校を想定した明治時代の校舎のロケ地として安積中学校旧本館が使われ、安積の第5代(明治26.3月～11月)校長横地石太郎氏は、その後、愛

媛県尋常中学校の第8代（M29.2～31.11）校長を務めましたので、漱石と横地氏は松山で共に過ごした期間があるのです。

このことは、100周年の際の地元紙の記事で知っていたはずなのですが、安積歴史博物館の事務局長で84期橋本文典氏に改めて教えていただきました。横地氏は金沢藩士出身、開成学校から東京帝大理科（化学）を卒業。前任の住田校長が排斥運動で辞職した半年後に嫌々校長を継いだとされます。校長として漱石と重なるのは明治29年2月から3月迄のわずか2か月ですが、明治28年頃は松山中学の教務主任、教頭を務めたとされるので、漱石と横地は約1年間を一緒に過ごしたことになります。横地氏は、後に山口高等商業学校（新制山口大学経済学部の構成母体）の校長となった実力のある教育者だったようです。近藤英雄「坊ちゃん秘話」（昭和60年）によれば、中学の主席教諭西川忠太郎、沢幸次郎、中村宗太郎、横地石太郎等、複数の人物が赤シャツのモデルとされました。漱石自身は「私の個人主義」の中で「当時其中学に文学士と云ったら私一人なのだから、赤シャツは私の事にならなければならぬ」と語っているが、これは赤シャツが漱石自身というよりも、若い教師たちから文学士である自分が煙たがられていないかといった不安の反映であると同時に、東京帝大出

を鼻にかけて権力を振りまわすようなことが教育界にあってはならないことを同窓に警告しているとする説もあるようです。

こうして、築127年になる旧本館という建物と、横地校長を介して安積と愛媛松山、そして漱石は繋がります。

ところで、松山東高校の歴史は大変古く、明治11（1878）年愛媛県松山中学校と改称、この年を創立年としているので、安積よりも6年古いのですが、更にそのルーツを辿ると、文政11（1828）年、松山藩主松平定通が設けた藩校「明教館」にまで遡ります。この講堂は、昭和12（1937）年、旧松山中学校の敷地の一画に移築され今日に至っているのですが、松山中学の本館・講堂等は昭和9（1934）年に火災で焼失し、明教館のみが明治の雰囲気を与えています。

ここでは、正岡子規や秋山好古（陸軍大将、後に北予中学（現松山北高）校長を務めた）・真之兄弟等多くの著名人が学びました。秋山兄弟と言えば、NHKドラマ「坂の上の雲」ですが、その時も安積旧本館でロケが行われました。

余談になりますが、安積も高山樗牛や朝河貫一、二代続いた京都大学総長、芥川賞3名を輩出～安積の他には、都立九段高校（安岡章太郎ら）、都立日比谷高校（庄司薫ら）、私立麻布高校（北杜夫ら）の全国で3校

だけのはず～等、多くの素晴らしいOB・OGがいますが、松山東高校出身者も多士済済です。

漱石門下の安倍能成を始めとして、「ノボさん」正岡子規からの流れもあり、河東碧梧桐、高浜虚子、中村草田男、石田波郷等の俳人が多く、他にもノーベル文学賞受賞の大江健三郎や早坂暁らの小説家・脚本家を輩出。更には映画監督の伊丹十三、「太陽にほえろ!」の山さん役で知られた俳優露口茂らも。マスコミ関係では、コラムニスト天野祐吉、武内陶子・首藤奈知子（NHKアナウンサー）らを輩出しています（ここでは紹介しきれませんが、アナウンサーの多さには驚かされます）。また、安積と同様、「文経武緯」を掲げて高いレベルの文武両道を目指しており、昨年春の甲子園に21世紀枠で出場したことを覚えている方もいらっしゃるでしょう。安積も松山東高校に続いて、二度目の甲子園で校歌や「紫の旗～」を歌いたいものです。

今回、松山の話が多くなってしまいました。漱石没後100年に免じてお許しください。今年、安積は132年目の歩みを進めます。「七州の覇」と称えられるに相応しい安積高校にしていくことが、多くの安積の先人たちへの恩返しと考え努めてまいりますので、これからも皆様からの温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。

がんばろう 福島!!

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷり
ヘルシーな そば・うどん
夜は品揃え豊富な
東北の地酒で一杯

| | | | | |
|------|-----------|--------------------|------------|-----------------------------|
| 霞ヶ関店 | 〒100-6001 | 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 | 霞ヶ関ビル1F | ☎03-3581-7066 |
| 大手町店 | 〒100-0004 | 東京都千代田区大手町1-1-3 | 大手センタービルB1 | ☎03-3213-2385 |
| 中山峠店 | 〒963-1304 | 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 | | ☎024-984-3774 <店主>上野富衛(78期) |

私の東京物語

鎌田光明 (94期)

東京に来て35年弱、故郷・郡山で過ごした年月の倍近いが、未だに東京では落ち着かないと覚えることがある。

上京したのは東北新幹線が開通する前。東北線の終着、上野駅で降り、次の乗換駅である渋谷駅に向かった。山手線に乗り換えたが、疲れていたので途中居眠りをして目が覚めると、太陽の位置が反対にあった。渋谷駅は上野駅のほぼ対角線上にあるので当然のことであり、頭では理解したが、「あれ？」と思った瞬間、方向感覚が狂ったという感覚に襲われたのである。周回する山手線のせいかと思い、別の機会では地下鉄で移動したが、今度は、どこをどのように走っているかわからず、移動したことが実感できなかった。

恥ずかしい話だが、爾来、実はその感覚が抜けないのである。

郡山では、北には安達太良山があ

り、東には阿武隈山地、西は奥羽山脈があり、南は開けている。何処にいても方角がわかり、自分の位置について、地図上のイメージと実際の感覚が一致していた（と感じていた）。見える景色の違いから、たとえ短い距離であっても、空間的に移動したことも実感できていた。

東京では移動する場合、出発点と目的地の位置関係について、地図上ではイメージはできてきも「実感」することがなかなかできない。地下鉄で移動する場合は何処をどのように走っているかわからず、なおさらだ。一時期、中央線を使って通勤していたが、中央線は地上を東西にほぼ直線的に走っており、途中の地域の様子や風景を地図などで確認したので、さほどの違和感は無かった。それでも、途中駅で降りると、「北口」「南口」と言っても相対的なもので、太陽の位置との違いがあると違和感を感じ、表示などに従っているだけで、自分で方向を意識し、確信を持って歩いている感じがしなかつ

た。

郡山と東京では、都市の規模は比較にならないし、過ごしていた年齢も異なり、生活スタイルも違う。自宅と学校の往復が主で徒歩か自転車が中心の移動であったのに対し、出勤のために電車で長い距離を移動するし、休日にも自動車や電車で遠くまで様々なところに出かける。郡山では、街並みだけでなく、そこでの暮らしも実感できていた。当たり前といえば当たり前であるが、郡山で感じていた絶対的な位置感覚が、東京では相対的なものになった、という感覚は否めない。

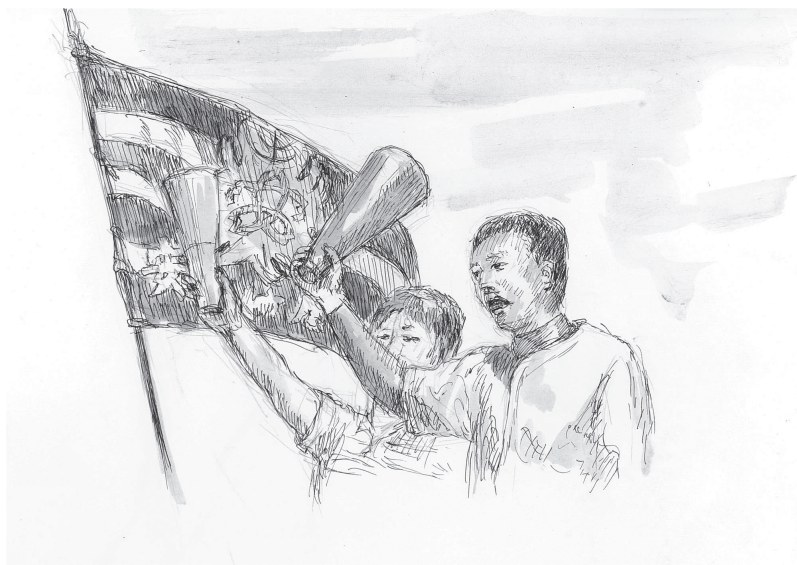
近時、GPSの機能とスマホの地図アプリによって、移動中（地下鉄の中でも）自分の位置を確かめることができるようになった。現在地、東西南北などを把握でき、不思議と落ち着く。また、健康づくりのために街歩きを始めたところを地図を片手に歩いてみると、様々なことに気づき違和感も減ってきている。古地図などで街や建物の来歴を知ると、より馴染んだ感じになる。

それでも、帰省時に感じる安心感には及ばない。田舎者にすぎないかもしれないが不思議なものである。

安積の東京物語

和田正哉 (77期)

東京桑野会広報部より、「安積の東京物語」を書いてほしいとの要請がありました。何を書いたら良いかわかりませんでしたので、東京に出てきてからの約50年間の自分の事を少し書いてみようと思い筆を取りました。私も昨年古希（70歳）になりましたが、色々なご縁で、色々なことにかかわり、生かされてきたなあと思う今日この頃です。



《安積・応援》画：櫻村俊智 (98期)

30歳の時に東芝の関連会社を辞めてから、ちょっとしたご縁で25年位前に、和田さんも福島県の出身だからという理由で、米国の「野口英世財団」にボランティアで医者以外の評議員として、設立に参加しました。初代の理事長として、ペンシルヴァニア大学の医学部の朝倉稔男教授（現在も教授として活躍されております）が就任し（※現在、理事長ではない）、数年間微力ではありますが、お手伝いをさせて頂きました。そのご縁で、朝倉先生の弟子で現在横浜の「センター南クリニック」の院長の武田茂先生が、米国より帰国して開業以来、私の主治医として毎年人間ドックで診てもらっていました。10年前に、毎年行っている血液検査でガンがわかる方法で検査したところ、肺ガンのところにほんのわずかマーカーが出ました。PET（ペット）「画像分析」で検査してもらいましたが、異常はありませんでした。次の年もまた肺がンの所にマーカーが出ました。どうという事もなかったのですが、それから一ヶ月後に咳が止まらなくて、風邪だと思い近所のクリニックに診てもらいに行き、レントゲン（肺がんは咳に特徴がある）を取ってもらいました。そうしたら、先生がレントゲンを見て、「ほんのわずか薄く影みたいのが見えるが、和田さんは、タバコを喫わないから、たいした事ないかなあ」と言いま

した。武田先生の所で、肺がんのマーカーが出ていたので、私は先生に強く頼んで、住まいのある市川の歯科大学病院で精密検査をお願いしました。CTで検査し、30倍に拡大した所、どうも肺がんらしいと言われたので、再度築地の国立がんセンター中央病院（全員が色々ながん患者さんだけ）で検査を受けたところやはり肺がんでした。国立がんセンターは非常に混んでいて診てもらうのに2～3ヶ月位は待たされるという事でしたが、私は運が良くてすぐに診てもらい手術もすぐにやってもらいました。成功して、8年目になります。私の手術は、渡辺俊一博士で中央病院では、現在呼吸器外科（肺がん）のトップで活躍されています。ちなみに中央病院は、肺がんでは手術件数、成功率で、現在日本一です。安積高校OBの方で肺がんの関係者がおられましたら、ご連絡頂ければ、少しはお役にたてられるかと思えます。

ボランティア活動は色々行っていますが、船橋では社会福祉法人「夏進会」（老人ホーム50床）を現在理事長とたちあげ今年13年目になります。又NPO国際親善協会の理事をしています。この協会は、JICA（国際協力事業団）と協力してベトナムの小・中学校に浄化槽装置を毎年一台づつ寄付を行ってきました。昨年9月に10台目（10年）をベトナムの中学校

に寄付をしました。理事の中に東京オリンピックで重量挙げで金メダルを取った三宅義信さんもいらっしゃって、色々アドバイス等を頂いております。理事会が終わった後には、三宅さんと一緒に飲みに行ったりカラオケに行ったりしています。早期発見で肺がんが見つかり助かった命なので、何とか少しでも社会に貢献しようと思ひ、4年前には相模原市の社会福祉法人「アリス」（保育園で0歳児～5歳児75人を預かっている）の設立に参加し、現在監事を拝命し、微力ながら、色々協力しております。

まだまだ社会にお返しは出来ませんが、東京に出てきてからはあつという間でした。色々なご縁があり、色々やらせて頂いておりますが、皆様方のご協力ご援助のお陰で、何とかやってこれたのだとつくづく思っております。最後に私の大好きな中村天風先生の言葉で、筆を置きます。

誓 詞

今日一日

怒らず 怖れず 悲しまず

正直 親切 愉快地

力と 勇気と 信念とをもって

自己の人生に対する責務を果たし

恒に平和と愛を失わざる

立派な人間として生きることを

厳かに誓います

（東京桑野会副会長）

小橋クリニック

院長 小橋主税（86期）

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

のびのびと？

土田隆弘 (105期)

安積時代をのびのびと過ごした私は、のびのびとし過ぎたために浪人し、しかも、浪人時代ものびのびとしていたためであろうか、希望進路に叶わず、都内の某大学文学部に入学し、国語科教員になるべく学問とアルバイトに勤しんでいた。

住まいは東上野、関東大震災以後に建てられた長屋。そばに下谷神社とお稲荷さまがあり、東京大空襲ではそのお陰で災いを免れたのだそう。上野駅まで徒歩8分、もよりの地下鉄駅まで5分。好立地である。こうなると宿命である。私の家は、高校の友人・部活動の後輩たちの格好の餌食となったことは言うまでもない。彼らの東京進出の前線基地となったのである。何かあると友人がやってきて泊まり、酒

盛りをする。帰福の途中に寄る、関西に行くその途中に寄る……。本当に友人たちがよく遊びに来てくれた部屋であった。そんな広く古く好立地の部屋に、本と埃を友として、院生時代も合わせて6年近く住んでいただろう。

そんな、築七十年超の部屋で、たぶん、高校や予備校よりもはるかに学問に打ち込んでいた(と思われる)私は、のびのびと東京の生活を楽しんでいた。まず、文学部の命である書籍を探すのには困らない。大学があった九段から神田神保町においてきて一時間ぐらいと思っていたら、思わずのびて2~3時間も書籍を漁り、三省堂のとなりの富士山房のとなりの地下にある紅茶専門店で一休み。その後駿河台を登ってそのまま本郷の古本屋に。そして、そこから東大病院の脇を通って不忍池に出て、上野公園を横切って自宅に戻る。車の生活に慣れた今の私

にしてみれば考えられないような生活を、毎週送っていた。

本代はアルバイトの掛け持ちで何とか稼いでいた。小料理屋さんで賄い付き、さらには、神保町の古本屋さんで。古本屋では、バイト代をお金でもらったことはほとんどなく、全て本で頂いていた(でも、本の代金がバイト代以上で、こちらがお金を払うことばかりであった。

小料理屋のバイト先も上野にあった。ここは、旦那さんがいろいろなものをこだわって出していた。味見をさせてもらった冬のマグロは、後にも先にもあれほど美味しい赤身を食べたことはない。他にも、三重県は的矢の牡蠣。春には筍や長良川の五月鱒……。夏には瀬戸内の鰻……。秋には松茸の土瓶蒸し……。また、その当時としては珍しく、全国の日本酒の地酒を60種類ほどを取り扱っていた。バイトである私も、お客様にお勧めする

不法電波は
やめましょう!

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう!

株式会社 山口電機

www.yamaguhi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

学年幹事2年目に 当たって・・・

山本謙二 (84期)

東京桑野会・第84期会（通称：野士の会）の恒例の新年会があったのは昨年（平成26年）の1月31日。場所は、以前の学年幹事で有り現在の副会長でもある小林伸久君の手配による、日本橋の「海鮮&カキのイタリアンレストラン：カレンダー」でした。懐かしい面々と顔合わせをするのも久しぶりの事でした。美味しいシーフードに、これまた美味なるワインで歓談することとなりました。小林君とは、私が50歳（13年前）になった歳に初めて「東京桑野会・総会」で会いました。私は熱海中学校、そして小林君は喜久田中学校。

本来であれば、磐越西線を使っただけで「汽車通学」で有ったことでしょうか、小林君は自転車、私は汽車通で3年間の安積高等学校在学中には一度も顔を合わせたことが有りませんでした。そんな小林君とも早いもので「東京桑野会」を通じて14年目のお付き合いになりました。

以上、味が分からなければならぬという理由をつけて、少しずつ味見をしたものである（ただで）。

この上野という場所はのびのびと生活するには打って付けの場所でもあった。下町の静かな中に、ご近所づきあいもあり、安い食堂もある。歩いてほど近いところにはコリアンタウンもあり、そこで食べる、学生でも何とか払えるランチの焼肉定食は本当に美味しかった。上野の駅を挟んで「お山」（地元の方はそう言っていた）には、東博（東京国立博物館）、国立西洋美術館、東京都美術館、東京芸大演奏堂、先述の国立国会図書館上野分館があり、26歳まで学生だった私は、「学割」でいろいろな催し物に足繁く通っていた。特に、国立西洋美術館の「モネの部屋」には椅子に座りながらのんびりと、文字通り「ながめ（物思いに耽る）」ていたものだ。その後に館内の喫茶店「睡蓮」で紅茶を飲みながらのびのびと読書するのが至福の時であった。晴れた日には、東博の前にある、噴水のそばのベンチに座りながらのびーをしながら日向ぼっこするのも楽しみであった。

勉強もおろそかにしていたわけではない。特に、院時代の授業はハードなものであった。東京大学からいらっしゃる教授の授業は、博士後期の先輩方が2名、我々の代が2名、留学生が2名の6名で、中国の「竹林の七賢」の一人、阮籍の文章を読んでいた。これが篋棒に難しく、また、6名で分担して読んでいくのだが、順番も決まっていなかったのが、私がどこの部分を担当するのか、分からない。授業の進み具合を考えて、その部分を全て読めるようにしていかなければならないのである。辞書を数種類駆使して、それでも分からず、同級生と夜中に電話でああでもない、こうでもない議論白熱、侃侃諤諤。それでも決まらず、迷いながら授業に出て、教授曰く、「そ

れは違うねえ。○○という文献は読んでいないのかね？」などと言われるのである。温厚な先生であったが授業では非常に厳しく、毎授業ごとに冷や汗をかいたものだ。今でもその時のことを夢に見る。「起きたら今日は水曜日。ああ、予習してない!!!」と。

その傍ら、水道橋にある某私立高校で、非常勤講師として教えることとなった。塾での経験はあるが、教員としては初めての教壇である。しかも、初っ端から3年生の特進コース担当。男子校であったためいろいろなことを話すことが出来（その内容はここでは言えない）、しかもいい生徒たちでとても授業しやすく、何とか無事に1年を過ごすことが出来た。たまに、院の授業が夜9時に終わり、その後九段下の地下にあるバーで飲んでいて、気づいたら朝、一度家に帰りシャワーと着替えをし、すぐに高校の授業に直行。生徒達曰く、「また飲んだでしょう!!!」と。本当にのびのびと過ごしていたのである。（105期幹事、福島成蹊高校）



《安積・練修》画：櫻村俊智（98期）

前記の昨年の新年会の席で、突然と小林君より「次の学年幹事を山本君に！」と言う意見が発せられました。私としても特に断る理由も見つからないまま「承知しました！」と快諾してしまいました。まあ、小さいながらも自営ですし、今は以前と違い時間の都合もつけやすい状態で居りましたので「頑張ってみます！」と答えてしまいました。正直、何をどうしたらよいのかとかいうことは皆目見当もつかず、前任者の小林君には色々とお世話を掛けました。

①昨年の「東京桑野会・総会」の案内状の作成～発送/そして2次会の手配。

②残暑厳しい9月に企画した「東京湾・納涼屋形船」の企画～手配。

③そして、この原稿を書いている時分には（2月13日～14日/熱海一泊新年会）の企画～実行。

全てが全て、小林君の真似事では有りますが何とか企画～手配～実行・・・と奔走しております。

今回の「熱海一泊新年会」のメンバーと言えば・・・小林伸久君（孝和建商・取締役）・内藤芳樹君（キングコーポ

レーション）・松井陽一君（内田洋行）青沼俊博君（元コピーライター）・渡辺修哉君（AC取締役）・小林信一君（凸版印刷）そして私の「七人の侍」となりました。家久来澄夫君（元NHKエンタープライズ）は、インフルエンザで急遽不参加となりました。まだ、現役で活躍されている方々、一線を退いて孫もり（？）に専念される方々・・・と諸々。中々都合を合わせる事が難しかったりはしていますが、年に数度は細やかな企画で集まりたいものどと思ったりしております。

安積高校を卒業して早40数年。それなりに人生を送った面々との再会はこの上ない楽しみです。私事ではございますが、新しいプロジェクトに参戦したりしながら、まだまだ好きな仕事に前向きに日々を送って居ります。そもそも、写真が好きで始めた商売。時の流れとともに、アナログからデジタルへと大きく時代は変革を極め、果たしてこの流れに乗ってゆけるのかと自問自答した日々が懐かしく思える昨今です。今は「ネット社会」。クオリティーに殊の外こだわりを持って続けてきた仕事・・・。安直に「デジタル

なら何でも出来る！」みたいな流れに乗ることなく、しつこくこだわりに沿ってやってこれたことが、今の自分が有るのだと感じています。これから先、目標は2020年東京オリンピックに置いて仕事に！学年幹事に邁進しようと思っています。少しでも多くの同期が「東京桑野会」に思いを馳せて更に参加下さるように「2年目の学年幹事」も頑張ろうと思っています。

（株式会社エスパース/代表取締役）

私の東京物語

根本孝七（91期）

4月はフレッシュマンの季節、新たに東京での新生活をスタートする東京桑野会の新会員もおられることと思います。私の場合は、合否電報は「サクラサク」、「ミチノクノユキフカシ」と、1勝1敗の運よく受かったほうの大学が東京にあったことから、私の「東京物語」は始まりました。爾来40年弱、東京暮らしを続けている自分にとって、福島県人であること、質実剛健を校風とする安高OBであることはとても大事なアイデンティティとなっています。社会生活を送るうえで、自分のキャラクターを周囲から理解して貰う事は大事であるし、スタイルを有していることは合理的でもあります。長所と短所は表裏一体、対なので、ぶきっちょさなどの自分の属性的課題も包み込んでくれることも有難い。

アイデンティティと言えば、福島は、果物類、菓子類、日本酒地酒、ラーメン、温泉とさらには観光もお国自慢のネタが豊富なので、キャラクターを表出するのに容易です。当然、職場などへのお土産には薄皮饅頭（こしあん）やゆべしなどを、職場の会合には地元船引のあぶくまや地球侵略などの福島地酒を供出することで、自分のキャラを目立たせることになります。嬉しい



《安積・三代の肖像》画：榎村俊智（98期）

ことに福島県のアンテナショップとして、八重洲観光交流館に加えて、日本橋ふくしま館MIDETTE（見でって（笑））ができました。福島の品々が簡単に入手できるので、近くの用事おりに寄るのが楽しみです。日本橋ふくしま館では、福島地酒の品揃えが圧巻で、近年は品評会でも金賞受賞するものが増えていることもあり、福島地酒の実力を実感できます。さらにお酒カウンターもあるのでお酒も飲めるのが嬉しい。菓子類の品揃えも大変に充実していますが、しかし、なぜか私の好きなエキソパイが無いのは物足りない。東京桑野会会員には是非、時間を工

面して立ち寄ることをお勧めしたい。

先日、北陸三県の経済界が力を入れた北陸フェアを見に行く機会がありました。北陸三県も日本酒地酒と郷土料理の品揃えは重厚で、良いライバルですが、フェアの趣旨は新幹線開通を機とした企業誘致でした。東京など大都市圏からの企業誘致や地元・地場産業育成の切磋琢磨は従前にも増して重要です。新幹線や高速道路が整備され、交通・通信網の発達した現代では、すでに故郷は遠くで思うものではありません。“東京”と“地方・故郷”、対句の意味も変化し、生活・社会活動の二拠点化にシフトしようとし、より共

存・両立性が大切となっています。

ところで、東京物語と言えば、原節子さんの日本的な女性の淑やかさがとても印象的で私も好きな映画の一つですが、私の家内に言わせると、現代女性から観るとその女性像はイライラするものであるらしい。一方、同じ女性像でも、先のNHKの朝ドラ「あさが来た」の波瑠さん演ずる男振りの良い女性像は、男女双方から高い好感を得ていたように思えます。これから、ますます女性の活躍が鍵となります。地方と東京、老若男女、対のバランスが大事。東京物語の感想です。

（船引中学校出身、西東京市在住）

安積歴史博物館便り —安積歴史博物館近況—

橋本文典（84期）

今回も東京桑野会の皆さまにご挨拶が出来る機会を設けて頂き有難うございます。本日は昨年の動きを中心に報告させていただきます。

福島県では、平成27年4月から6月までの3ヶ月間を「福島DC（福島ディスティネーションキャンペーン）」と称して観光客の誘致を実施致しました。当館でも来館者の増加を図るため全面的な協力態勢で各種パンフレット

やメディア等へも露出を多く致しました。と同時に館が主体となつてのイベントや、展示会等の会場としてご利用頂きました。

3月末からは「まちかどの近代建築写真展」として全国各地に現存している西洋風建築物の写真をギャラリーに掲出致しました。勿論当館の写真も展示され、当館の価値を再認識したところです。

その後、郡山在住の写真家野口勝宏氏の作品「福島の花」写真展の会場としてご利用頂きました。同氏は世界大会でグランプリを受賞され、展示期間後半には県内は下より各地から多くの

来館者にお越しいただきました。

更には、郡山市主催の「朝河貫一博士トークセッション」の会場に使用されたこと等から、朝河博士を育んだ「父、朝河正澄」について公開講座を開催することになり、8月の末から都合3回に亘り、同窓生で元安積高校校長を勤められました梅田秀男氏に講師をお願いして開講致しました。

秋以降については、福島復興の支援の意味合いもあり、ユニクロのCMでも有名な「篠笛奏者、佐藤和哉」氏のコンサート会場に使用されました。夕刻から夜へと帳が落ちる中、篠笛の旋律が講堂に響き、幻想的な雰囲気

小濱 精吾（58期）

安高は自分の心の拠りどころ

医療法人社団 松弘会
トワーム小江戸病院

院長 医学博士 渡辺 哲弥（70期）

（練馬区東大泉7-14-15）

村山 俊司（61期）

自宅：〒195-0072

東京都町田市金井3-13-7

TEL & FAX: 042-734-8876

携帯：090-5999-4814

経歴：本宮小卒、旧制安積中に自動車通。

三菱電機停年退職、

三菱電機専取締役社長退任。

ち溢れた本館でした。

撮影等にも使用されました。ご覧になられた方も多く存じますが、フジテレビお正月特別番組「坊ちゃん」の撮影が行われました。人気アイドルが主演でファンの方々の反応も大きく、撮影地巡りよろしく終了後も見学に来ています。

サブライズとして、古川日出男氏学校長「ただようまなびや文学の学校」の時間割の中、世界的に注目されている「村上春樹氏」が来館され、市内の高校生と意見交換をされました。時間前に館内を見学され、芥川賞3名を輩出されていることに興味を示されました。

以上が主な出来事です。今回私達にとって最大の感激はドラマ撮影中出演者の一言でした。「年々ロケ地が無くなっていく中で建物の維持管理の苦勞に感謝します。」

東京桑野会会員の皆さま、是非福島へ安積へお越し下さい。事務局も維持管理に努めます。そしてご理解とご協力をお願いいたします。本館は「公益財団」に認定され、寄付金には税制上の優遇措置が有ります。桑野会同様「公益財団法人安積歴史博物館」にも何卒ご協力をお願いいたします。以上、近況報告に代えさせていただきます。
(公益財団法人 安積歴史博物館 業務執行理事)

朝河貫一博士顕彰協会の活動2015年

矢吹 晋 (70期)

『会報』第44号(7月10日発行)をもとに昨年の主な活動を振り返ると、以下のごとくである。恒例の総会は5月30日(土)安積歴史博物館で開かれ、前年度の事業報告、決算書を承認し、2015年度以降の新役員体制および事業報告、決算案を決定した。総会には役員、一般会員並びに山川健次郎顕彰会(会津若松)の役員、合わせて40人が出席した。重点事業としてすでに選定済みの「朝河貫一の道」県内コースに続いて「国内コース」「海外コース」の選定を行うことになり、新メンバーによる選定委員会を発足させた。

なお、総会終了後に代表理事矢吹が刊行されたばかりの朝河貫一著、矢吹晋編訳『中世日本の土地と社会』

(写真-1。柏書房、2015年3月)の主な内容を40分にわたり解説した。この本は、朝河貫一が越前国大野郡(現福井県)牛ヶ原庄の記録をもとに、領主の土地支配と水稲工作の小作人との関係を実証的に分析したものである。そこで明らかにされた小作人の地位は、ヨーロッパのような農奴ではなく、水田を個別に保有し、一定の年貢を取れば貯えも十分可能な経営者であったなど朝河博士の研究成果を紹介した。この本は朝河博士の遺稿として残されたものだが、今回の翻訳により、『入来文書』、『大化改新』、『比較封建制論集』と並んで、朝河博士著作四部作がすべて翻訳されたことになる。

ところで、昨年秋には矢吹晋著『対米従属の原点、ペリーの白旗』(写真-2。花伝社、2015年11月)も出版された。白旗論争は歴史家の間で賛否が分かれてきた日本の開国をめぐる重大な論点である。黒船で浦賀沖に

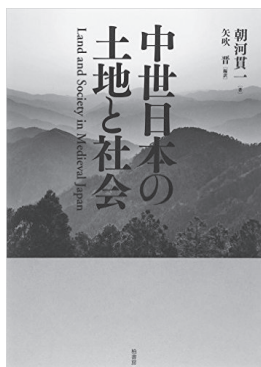


写真-1



写真-2

弁護士 齊藤 英彦 (69期)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目3番8号
YKB新宿御苑804号室
電話 (03) 3356-6677番
FAX (03) 3356-6678番

21世紀をリードする
安積SPIRIT!

浅川 章 (76期)

東京桑野会副会長
〒338-0821 さいたま市桜区山久保2-18-3
電子メール: chobi@hyper.ocn.ne.jp

ごうや
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一 (89期)

〒100-0012
東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館1階115号室
TEL 03-3501-0451
FAX 03-3501-0452
E-mail: shuitisuzuki@nifty.com
http://www.yamoda-law.gr.jp

現れたペリーが白旗二本とともに「和陸を乞いたくば白旗を掲げよ」とする文書を幕府に手交したかどうか、それが論点である。朝河貫一の師はフレデリック・ウィリアムズであり、その父がペリーの日本語通訳である事実からして、歴史の真実に最も通じていたのが朝河貫一であり、朝河史学を無視するならば、このナゾを解けないことは容易に察せられよう。日本の歴史家たちは朝河史学を無視してきたことによって、日米関係の原点を見誤って今日に至る。この論点がなぜ重要なのか。ペリーの「桐喝外交」は戦前の対日戦略から戦後占領および日本の対米従属まで日米関係に色濃く影を落としていて、日本の対中姿勢、沖縄問題とも深く関わるからだ。われわれは今こそ朝河史学に光を当てるべきではないか。

(朝河貫一博士顕彰協会代表理事)

ホームページの運用状況報告

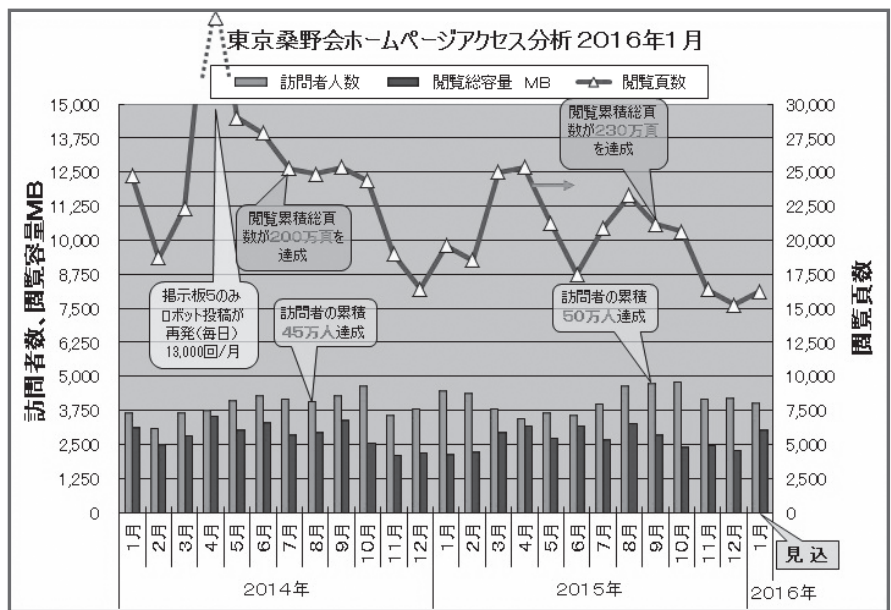
—創設13年目の活動とアクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀雅美 (86期)

(東京桑野会ホームページ委員長)

冒頭からマイナス発言でたいへん申し訳ないが、当会ホームページアクセス数は2015年9月に訪問者50万人および閲覧頁数230万ページビューに達



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

したが、この1年ではやや右肩下がりか良く見ても増加傾向は見当たらない横這い状態である。ホームページ運営の意義を見直す時期ではないかとも考えている。グランドオープンしてからこの3月で14年目に突入した。過去何度も繰り返してきたが、情報化技術はこの数年間にも飛躍的に向上・変革し、インターネットなしには生活ができない世の中となっている。ただし、かつてのパソコン全盛期からスマートフォンに移行しており、今の若い世代はパソコンを持っていない。自由度の高い携帯端末が主流となっており、要は道具の使い様であろうか。

私事であるが、首都圏を離れて最寄りの鉄道駅まで20kmという田舎町の地方勤務となって3年間、ネット環境も厳しい状態だったが、残念なことに持参したモバイルパソコンがついに故障した。会社の事務所で使用しているパソコンはネット接続に制限が掛けられており、当然だが私用には使えない。東京桑野会ホームページの維持管理にも支障が出ている始末で、まことに申し訳ないと思う。修理に出してはいるものの全損の可能性が高く、新品を購入する方がお得と修理業者に言われているがとりあえずハードディスクのファイルを取り出すことに成功し

株式会社 富士ハイエンジニアーズ
一級建築士事務所

代表取締役 (管理建築士) 遠藤 修 (67期)

(一級建築士)
(一級建築施工管理技士)
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号
☎: 044-988-7387 携帯:090-3212-2892
FAX: 044-988-7547
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

本当の医療崩壊はこれからやってくる！
2015年2月 洋泉社、本田 宏著

本田 宏 (86期)

元埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐
NPO法人医療制度研究会 副理事長
オール埼玉総行動 副実行委員長

朝河貫一先輩が戦前に嘆いていたと同様に、格差拡大、医療崩壊、違憲の安保関連法強行採決等々、「日本の危機」が再来しています。昨年3月で外科医を引退し、講演や市民運動に身を投じて、幅広い国民の連帯による市民革命を目指しています。皆さまの応援を心よりお願いいたします。

連絡用メールアドレス hondahiroshi@me.com
携帯番号 090-3205-9482

古川 清 (63期)

た。従ってやっと2月になってこの原稿が書けるようになった次第である。4月の会報発行の頃には新しいパソコンを入手しているものと考えられるが、ひとまずホームページ管理業務を離れてしまうことになる。

本題の当会ホームページ運営活動の話題に戻るが、毎年の会報での年間活動報告は早いもので回を重ねて13回目となった。幸いなことにホスティングサービス会社のハードや回線の面では全くと言ってよいほど障害やトラブルはなく、昨年4月に苦勞した掲示板のロボットによるスパム投稿も完全にブロックできており、平成27年度も平穩無事に運用することができた。ご

利用いただいた会員の皆様に深く感謝を申し上げたい。

相も変わらずの発言で申し訳ないがこの13年目についても、追加記事の掲載やイベント紹介頁の作成など積極的に活動することができなかった。コンテンツ提供の貧弱さは当会ホームページ委員会の非力のせいである。お恥ずかしい活動であり、会員の皆様には平に陳謝したい。少ない改訂・追加コンテンツではあるが以下に記しておく。震災から5年となった福島第一原発の復興作業状況を昨年夏に記事にして発表した。リアルタイムに状況がわかるよう、NHKのコンテンツにリンクも貼った。今後は少しずつでは

あるが、追加記事として掲載していきたい。次は嵐の二宮和也坊ちゃんの紹介である。副会長からの連絡で急きよ掲載したが、昨年安積歴史博物館でロケを敢行したフジTVの新春スペシャルドラマである。今年1月3日に放送され、この4月中旬にはDVDが発売される。また、昨年引き続き親睦ゴルフ会の案内を掲載した。夏の甲子園野球福島県大会の組み合わせについても、例年通り紹介した。主なコンテンツはこんなところであろうか。

さて、ここで当会ホームページへのアクセス状況について報告しておく。この原稿を書いている1月までの経過を過去2年間分のグラフで示しておく(別掲の図を参照:今年1月は見込みの数値)。昨年9月11日に訪問者数50万人、9月9日に閲覧頁数230万ページビューに達したことは述べた。この1年間の平均で、月に訪問者4048人、閲覧頁20271頁で推移しているが、訪問者数で前年比0.2%減、閲覧頁数で前年比12.5%減となった。昨年はその前年の2013年と比較して極めて好調だったので、元に戻ったという感はある。大きな波のひとつと考えれば合点がいく結果であろう。

しかしながら全般的にはアクセス数が低調になっており、引き続き会員の皆様のご協力を賜りたく切に望んでいる。またコンテンツや情報の提供につきましても、随時事務局へご連絡頂きたく、ご協力についてこの場を借り



《安積・思索の森》画：櫻村俊智(98期)

展示会

平成28年12月7日(水)～19日(月)

土日会展:国立新美術館

出品作品 チャグ馬シリーズ (194×579cm)

平成28年6月1日(水)～6月7日(火)

日芸ふくしま江古田会展:郡山ビッグホール

出品作品 チャグ馬初詣(平成27年12月作 194×579cm)

高松 ゆたか (74期)

ギャラリー・
絵画教室 **たかまつ**

(<http://www.gallery-takamatsu.com>)

株式会社開成プランニング 代表取締役
(<http://www.kaisei-planning.co.jp>)

和田 正哉 (77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2

勤務先電話: 03-3230-8001

FAX: 03-3230-8550

携帯: 090-3236-3883

e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp

携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp

自宅電話: 047-332-2287

株式会社櫻井淳計画工房

代表取締役 一級建築士

櫻井 淳 (78期)

〒231-0007

横浜市中区弁天通6-85宇徳ビル403

TEL: 045-663-9271

FAX: 045-663-9273

E-mail: spajun@bk.ij4u.or.jp

Web Site: <http://www.j-sakurai.jp/>

てお願いしたい。事務局への連絡は、ホームページをご覧ください。

最後に毎年の決まり文句ではあるが、今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えている。重ねて当委員会への参加または情報提供を広く会員諸兄にお願いしたい。

(出光興産(株)電子材料部)

竹花則栄先輩への墓参

古川清 (63期)

東京桑野会の総会は毎年春、目白の椿山荘で開催されているが、その最大の貢献者は竹花則栄さん(55期)である。竹花さんは椿山荘の総支配人であったこともあり開催については様々な便宜を図って頂いたし、定年引退後も総会には必ず出席されて後輩達に暖かい気配りを頂いていた。ところが10年程前から連絡が取れなくなり年賀状も戻ってくる事態になってしまった。幸い昨年後の総会後に大矢真弘君(88期)が消息を発掘してくれた。竹花さんは脳梗塞で倒れて転居され平成23年4月に逝去されていたのである。

よって昨年(平成27年)9月6日(日)有志5名(古川、高松、上石、渡邊(龍)、小林(伸))が鎌倉は腰越の名刹 龍口山本龍寺にある竹花さんのお墓に詣で、焼香の上、校歌を斉唱その霊をお慰めしてきた。

日蓮宗龍口山本龍寺 墓参随行記

小林伸久 (84期)

古川会長ほか諸先輩と一緒に、竹花先輩の墓参に随行させて頂きました。竹花という名前を聞くと、我々が現役の際にいらっしやった竹花栄明先生(48期・昭和23年7月～昭和55年3月・勤務 社会(世界史))を真っ先に思い出します。今回墓参をした竹花則栄さんはその弟さんでした。そして竹花先生の息子さん竹花宏明くんは私と同期の84期でした。

江ノ島電鉄の腰越駅で待合わせ。久しぶりに江ノ島電鉄にりましたが。民家の軒先を掠めて通る様は相変わらずです。駅から狭い小道があることしばし、日蓮宗龍口山 本龍寺に到着(日蓮上人が仏法の力で処刑を免れたといわれる聖地・龍口刑場を護持する為に建てられた腰越六寺のひとつです)。多くの蓮と蛙の置物が目立つお寺でした。

お天気にも恵まれ、墓前に供物を供え、線香をあげ、校歌を斉唱し故人を慰めした帰り道、折角なので御当地の名物「しらす丼」でも食べて帰ろうかという話になり、近くでお店を探しました。ほどなく腰越駅から徒歩1分のレストラン「VOYAGE」を見つけ、釜揚げしらす丼を食べつつ、故人を偲びながら、故人についてのお話や、鎌

倉の歴史に関する諸先輩の話に興味深く伺い、帰路につきました。

(東京桑野会 副会長)

ピンピンコロリ講座

宗像良保 (78期)

戦後生まれの78期生も、今年は満70歳を迎えます。「元気で長生き」といきたいところですが、身体は相当にガタが来ています。

そこで、寝たきりなどにならず、最後までコロリといきたいと、「ピンピンコロリ講座」を始めることにしました。そして、1月30日に同期の上野富衛さんが経営する東京大手町の「鞍手茶屋」で開始しました。

第1回目のテーマは「病氣自慢」。チャンピオンは誰か。審査委員長は、同期で、郡山医師会会長の松井元右さんです。23人が集まりました。

同期生の病氣自慢も半端じゃありません。そのいくつかを紹介すると...

- ・C型肝炎5回目を治療中。
- ・内科、耳鼻科、泌尿器科へ通院中。
- ・緑内障。
- ・糖尿病、高脂血症。
- ・高血圧症、高脂血症、高尿酸値症、白内障、緑内障。
- ・高コレステロール。
- ・糖尿病、白内障、前立腺肥大。
- ・前立腺がん。
- ・高脂血症、花粉症、無呼吸症候群。

がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)

Watanabe Ryuichiro

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-31-5-513
Phone : 090-1429-6127
E-mail : watanabe2021@ryu.bz

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一 (82期)

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15
青柳ビル7階
TEL : 03-3289-1411
FAX : 03-3289-1422
E-mail : s-ishii@e-1411.com
http://www.e-1411.com

奮い立て我健男児

大矢 真弘 (88期)

- ・前立腺がん、胆のう、白内障。
- ・高脂血症、痛風、慢性の腰痛。
- ・高血圧症、肺結核、大腿骨出血。
- ・慢性副鼻腔炎。
- ・胃がんで2度手術。
- ・腰痛、肩こり。
- ・高血圧症、脂質異常、糖尿病。
- ・肺がん。
- ・狭心症、糖尿病、高血圧症、変形膝関節症。
- ・白内障、頻尿。
- ・痔瘻、盲腸炎、腹膜炎、心筋梗塞、掌膿胸炎、高血圧症、胃潰瘍。

病名は多いが皆元気で、七つも病気を抱える同期生が真っ先にビールを要求するなどまさに「ピンピンコロリ講

座」でありました。

さて、第2回目のテーマは、「死んだらどうなる？ 葬儀と戒名、お墓選びの最新情報」です。

葬儀とお墓選びも最近変わりました。家族葬、樹木葬、直葬、生前葬。これまでなかったものです。先祖代々の墓、分骨、寺院墓地、手元供養。葬儀費用の全国平均が188万円、土地と墓石代で300万円。そして、都会に住む子供や孫たちが、果たしてお盆やお彼岸に墓参りに来てくれるかということも気になるところです。

この解説は、同期で郡山の安養寺の住職、土田宏禅さんが担当します。また、この回からは、要望により、ご夫

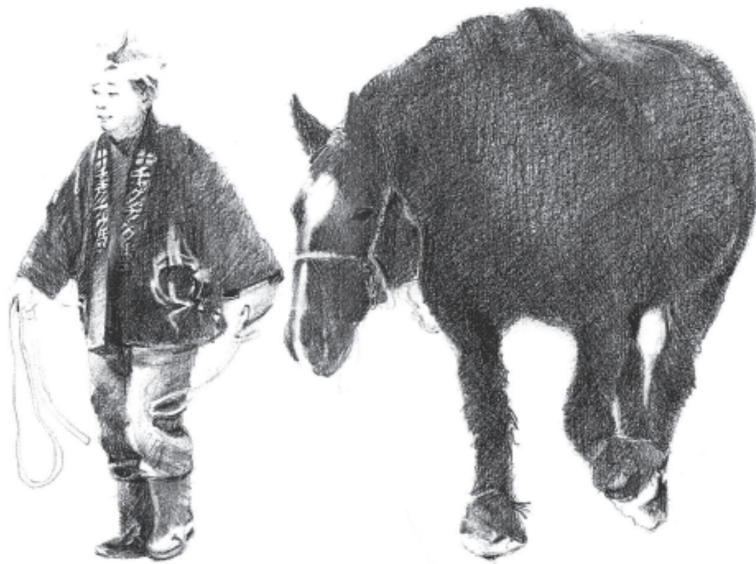
婦での参加も可能としました。

そして、3回目の「ピンピンコロリ講座」は、「自分や妻が要介護者になったとき、果たして入れる施設はあるか」です。

この講師には、宮城県名取市で介護老人保健施設を運営する医療法人の施設長、圓谷建治さんと、郡山でサービス付き高齢者向け住宅を運営する桑野協立病院院長の坪井正夫さんを予定しています。

同期にこうした人がいるということは心強い限りです。

「ピンピンコロリ講座」は、当分続きそうです。



《チャグ馬・線描》画：高松ゆたか (74 期)

あらゆる**木貫の床**を心を込めて施工します。
OKI法(床工事・内壁工事)・調製床・乾式調床・フローリングボード
フローリングブロック・塗床・ネダホーム・OAFフローその他一式工事

木貫床(フローリング)施工
孝和建商株式会社
千葉市中央区沙見丘町16番12号

取締役総務部長 **小林伸久(84期)**
電話:043-245-4111 FAX:043-244-9550
携帯:080-2045-0962
E-mail:nobuhisakoba@docomo.ne.jp

【協賛広告のお願い】

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。お問い合わせは事務局まで。

【事務局からのお願い】

会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきてしまいますので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいますようお願い申し上げます(東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

平成 26 年度決算報告書

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

| | 決 算 額 | 予 算 額 |
|---------------------|-----------|-----------|
| 1 収入の部 | | |
| (1) 前年度繰越金 | 547,923 | 547,923 |
| (2) 年会費収入 | 988,000 | 1,100,000 |
| (3) 総会費収入 | 1,195,000 | 1,200,000 |
| (4) 協賛広告料 | 300,000 | 270,000 |
| (5) 受取利息 | 71 | 40 |
| (6) 雑 収 入 | 46,000 | 30,000 |
| (7) 事業準備積立金繰入 | 300,000 | 300,000 |
| 収入合計 | 3,376,994 | 3,447,963 |
| 2 支出の部 | | |
| (1) 総会懇親会費 | 1,433,892 | 1,400,000 |
| (2) 通 信 費 | 34,687 | 50,000 |
| (3) 会 議 費 | 378 | 20,000 |
| (4) 会報作成費 | 378,000 | 378,000 |
| (5) 会報発送費 | 321,255 | 317,453 |
| (6) 事務消耗品費 | 145,487 | 150,000 |
| (7) 母校後援費 | 0 | 100,000 |
| (8) 冠婚葬祭費 | 32,982 | 50,000 |
| (9) 支払手数料 | 44,996 | 50,000 |
| (10) 人 件 費 | 390,000 | 400,000 |
| (11) 交 通 費 | 26,000 | 50,000 |
| (12) 名簿編集費 | 0 | 20,000 |
| (13) ホームページ・広報部会運営費 | 24,960 | 50,000 |
| (14) 雑 費 | 0 | 10,000 |
| (15) 予 備 費 | 0 | 402,510 |
| 支出合計 | 2,832,637 | 3,447,963 |
| 次期繰越金 | 544,357 | 0 |

平成 27 年度予算案

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

| | 予 算 額 |
|---------------------|-----------|
| 1 収入の部 | |
| (1) 前年度繰越金 | 544,357 |
| (2) 年会費収入 | 1,000,000 |
| (3) 総会費収入 | 1,100,000 |
| (4) 協賛広告料 | 300,000 |
| (5) 受取利息 | 70 |
| (6) 雑 収 入 | 30,000 |
| 収入合計 | 2,974,427 |
| 2 支出の部 | |
| (1) 総会懇親会費 | 1,100,000 |
| (2) 通 信 費 | 40,000 |
| (3) 会 議 費 | 2,000 |
| (4) 会報作成費 | 378,000 |
| (5) 会報発送費 | 310,042 |
| (6) 事務消耗品費 | 150,000 |
| (7) 母校後援費 | 30,000 |
| (8) 冠婚葬祭費 | 50,000 |
| (9) 支払手数料 | 50,000 |
| (10) 人 件 費 | 380,000 |
| (11) 交 通 費 | 50,000 |
| (12) 名簿編集費 | 10,000 |
| (13) ホームページ・広報部会運営費 | 40,000 |
| (14) 雑 費 | 10,000 |
| (15) 予 備 費 | 50,000 |
| 支出合計 | 2,650,042 |
| 次期繰越金 | 324,385 |

3 財産目録 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

| | |
|---------------------------|-----------|
| 特別会計事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行) | 1,067,212 |
| 現 預 金 (1) 普通預金 (三井住友銀行) | 499,942 |
| (2) 郵便振替貯金 | 34,793 |
| (3) 現 金 | 9,622 |

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成 27 年 4 月 14 日

会計監査 関 根 健 治
 会計監査 丹 治 則 男

会費納入のお願い

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

編集後記

○「安積の風」母校の年度末は生徒も先生も拳(コゾ)って忙しいのに、挿絵の願をしてしまいました。もしできれば、美術クラブの生徒の作品を期待しましたが、皆、お山のてっぺんを目指して急峻途上、挿絵制作依頼は困難でした。そのしわ寄せがまたしても櫻村先生に…。挿絵の進行具合をお尋ねして、母校の今のこまを知らされた次第です。そのような経緯で、今回の挿絵は、母校美術科現職(98期)櫻村俊智先生です。先生の、日々母校を見る目は、目立たないところから美学を拾い、確かな表現力で創作する辺りに、実力の一部を感じています。

その昔「風景」の漢字を用いて「風景画」とした意味が「フムフム・ソウカ・」。つまり、平面に立体の自然を観てかく時、風も、かきとりなさいと言うことなんだ。風景画とは「風をかく」ことなのか…。櫻村先生の作品にふれるたびに、安積の校舎の界限に吹く桑野の風を感じます。私たちを育ててくれた桑野の雰囲気のある風景が身にしみてくるようです。

(挿絵係り 74期 高松 ゆたか)

○今年の冬は大寒波がやってきて首都圏でも大雪となった。沖縄でも史上初の降雪を記録し、日本全国90%以上の観測点で氷点下を記録した日があった。にも関わらず、東海地方の工場に単身赴任しているわが身には関係なし。雨は降っても雪ではなく、出勤時に車のフロントガラスが凍り付いていたのはたったの2回。目の前は遠州灘の太平洋で、目を凝らして見ればハワイが・・・(そんな訳ないか)。そんな生活も終わりを告げた。3月末で退職となったのである。首都圏の自宅に戻り、家内と2人の旧婚生活。毎日が日曜日、美術館か映画でも見に行こうかな。うーん、これって意外と地獄かも。(がっちゃん)

○竹花先輩の訃報は昨年聞きました。今から5年も近くも過ぎたと驚きました。同じ須賀川出身であり、先輩のお兄様である竹花栄明先生の教え子の縁もあり、椿山荘の支配人時代から様々とお世話になりました。昨年9月の墓参りにご一緒できず、改めて鎌倉の龍口山本龍寺に行くつもりです。竹花先輩は昭和58年からは、東京桑野会の幹事長も務められ、本当に当会を育て

てくれた恩人だと思います。30年くらい前に、私たちの若い会報編集部のために椿山荘でグルメ編集会議を提供していただいたことは、良い思い出です。会報5号の100周年記念号に竹花先輩のアンケートに答える記事が載っており、「東京に行ったらどうしたかったか」の質問に、「一日も早く戦争に参加するつもりだった」、そして「敗戦で、サービス業に従事し、社会に貢献すること」の言葉がありました。竹花先輩の心意気と安積らしさを感じました。竹花先輩ありがとうございました。(78期・副会長・櫻井淳)

○広報部長として、10回目の会報をお届けすることが出来ました。ひとえに、東京桑野会の皆様、印刷社のキタジマさん等々、関係各位のおかげです。ありがとうございました。会報を編集していて、原稿の校正の段階で、“正しい”文を『間違えて』違う文に改悪してしまったことが何度かあります。すみません、文学的素養の乏しい私になんぞ編集をさせる皆様が悪いのです。つーか、高松さんすみません、前の号で間違えて直してしまいました。許してください。

また、皆様の文章を読んで刺戟されたので、以下に私の「東京ぶらぶらある記」を。古くも新しくも、「東京桑野会」に集いし面々は、安積の卒業を卒業して、何らかの目的で東京(首都圏)に出てきた方々です。そのストーリーや逸話を描いて頂くことが、今号の特集の意図でした。小生が東京桑野会に参加するようになったのは、15年前の母校野球部の甲子園出場がきっかけです。東京桑野会総会に初めて参加するため、椿山荘を訪れました。椿山荘のある付近は、大変に歴史の濃い場所です。この辺に小生が足を踏み入れたのは、1978年、入学試験を受けるため、大塚の地に降りた時が始めてです。その試験場所は、江戸時代は磐城国田村郡・守山藩の江戸藩邸の地であり、現在は教育の森公園となっています。大塚から都電荒川線で、鬼子母神(駅)を経て、学習院下(駅)へ至ります。学習院下から、神田川へ降りていき、遊歩道を神田川沿いに歩くと椿山荘の塀が見えてきます。この塀の内側が、ホテル椿山荘(旧フォーシーズンズホテル椿山荘東京+結婚式場「椿山荘」)です。塀に沿ってあるくと、「冠木門」という日本庭園への入口が見えてきます。日本庭園は2万坪もの泉林回遊式庭園で都内有数の名園です。入場料は無いので、この門を

くぐって庭園に入ると、右手に四畳枱床向切逆勝手の茶室、「長松亭」が見えます。この茶室の設計者は、「耳庵」松永安左エ門翁です。耳庵松永翁は近代を代表する茶人の一人と評価される一方、「電力の鬼」と呼ばれた電力業界の長老で、小生が勤務する研究機関の創設者です。庭園には、三重塔「圓通閣」(登録有形文化財)もあり、また夏には“ホタル”が舞うのが名物となっています。2015年11月には、「三春の滝桜」の孫樹が植樹されました。本年2016年の東京桑野会総会で、その姿を見ることが今から楽しみです。

椿山荘の学習院側の塀を越えた隣には、「和敬塾」があります。公益財団法人和敬塾は、東京・目白の男子大学生寮として著名ですが、そこの一大勢力として安積卒業生がいます。安積卒業生を和敬塾に大量に送りこんだのが母校で永年教鞭をとられた竹花栄明先生(48期)であり、椿山荘の総支配人であったのが竹花則栄氏(55期)です。ご兄弟が、この近辺での安積密度を濃くされたのですね。

再び、神田川沿いに戻り江戸川橋まで歩き、進行方向右に折れてさらに数百m歩くと神楽坂です。神楽坂の駅から徒歩1分、石本ビルB1Fに「泥味亭」があります。名前は「ドロミティ」に由来する位だから、店主は山男です。店主・大森博氏は安積81期、奥様は小野新町出身。東京桑野会諸兄の多くも通う、神楽坂の穴場の名店です。守山藩邸跡地からここまで、徒歩で6~7km、おおよそ半日の行程です。さあ、おいしいお酒を飲もうっと。(GF91)

※挿絵の「チャグ馬・線描」は、高松ゆたかさんから当方へのお手紙に添えられていたものです。すばらしいものであったので、挿絵として掲載いたしました。

『東京桑野会会報』No.38

2016年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2-9-5

東園ビル7階

新神田法律事務所内

Tel 03-3252-9671 Fax 03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515
